

防災・減災部門

応募事例名

再度災害防止に向けた迅速な対策 ～令和元年東日本台風による浸水を受けて～

応募団体名) 東京都狛江市

応募事例の概要

令和元年東日本台風による浸水被害と原因

<被害>

狛江市・調布市の床上床下計**654世帯**が浸水

	床上	床下	計
狛江	134	314	448
調布	122	84	206

<原因>

- 多摩川の水位上昇により2箇所の雨水幹線から**放流が十分にできず浸水**
- 職員の退避後に降雨・水位状況が変化、多摩川から**河川水が逆流し浸水が拡大**

<課題>

- 雨水幹線**流域の2市が連携して対策を検討・実施**することが必要
- 気候変動により同等の降雨はいつでも発生する可能性があり、**迅速な取り組みが必要**

課題解決へ向けた取り組み

対策① 両市副市長をトップにした検討会の設置 R1.12

- ・迅速な決定、進捗状況の共有
- ・有識者と東京都も加えた専門部会の設置

対策③ 排水樋管の遠隔操作化 R4.5



対策② 水位計、流向計、WEBカメラ設置 R2.7

- ・夜間や暴風雨時等でも的確な状況把握
- ・市民にも情報をリアルタイムで発信

対策④ 浸水被害軽減総合計画策定 R5.1

- ・定置式ポンプやポンプゲートを設置することで再度災害を防止
- ・2回の両市合同市民説明会、浸水被害地域等への個別説明、意見聴取も踏まえ策定

PRポイント

- 市民の**安全安心を早期に回復**するよう**段階的な対策を迅速に実現**
- 2市に跨る雨水幹線流末部**における対策を常に**両市合同で検討**
- 再度災害を防止**する(浸水を発生させない)**中長期対策を策定**
- 市民説明会**を両市**合同で開催**。丁寧な説明、**一体的な取組をPR**



狛江市環境部下水道課長
岩崎 俊勝

取組みに関するエピソード

別組織が協働して行うには意思決定のプロセスが異なる等苦勞がありました。両市の副市長が顔を合わせて議論する検討会を組織したことで乗り越えられたと思います。また、このことで迅速な判断が可能となり、遠隔操作化等先進的な施策の推進につながりました。